

見上げてごらん夜の星を
 全てを照らすみ仏の光あり
 清胤 弘英 師
 布教師 安芸教区正覚寺住職

光につつまれて

まだ子どもが幼かった頃の夏休み、日々忙しくてどこにも連れ出してやれず、一緒に遊んであげることも難しかったとき、久々に家族でお出かけすることが出来ました。子ども達も、とても嬉しそうでした。

その日の帰り道、車窓から見える星空のきれいなこと。思わず車を田んぼのあぜ道に止め、家族みんなで天蓋に広がる美しく煌めく満天の星空を眺めました。流れ星も見えたのですよ！ たった10分、15分の時間だったのですが、その僅かな時間、つくづく「幸せだなあ」と思いました。そして、毎日毎日、忙しさの中で星空なんて忘れていたけれど、この星空はいつも私たち家族を包み込み、光を届け、見守ってくれていたのだと感じられたのです。

みなさんも、疲れた時、寂しい時、うれしい時、悲しい時、悔しい時、孤独な時、ご縁のある時、夜の星空を見上げてみませんか。自分が忘れていたこと、いつも光が届けられていたことに気付くのではないのでしょうか。

そんな夜空の星のように、私たちをいつも照らし続けてくださっているのが、仏さまの光です。日々の生活を一生懸命歩む中、時間を作っても、仏さまの教えをお聴聞してください。私を包み込む星空のように、仏さまに優しく見つめられ、仏さまの光に照らされていることを受け止められるはずですよ。そして日々の生活、一歩一歩の歩みを、正しく取り戻していきたいものです。

親鸞聖人は「正信偈」に、「一切群生蒙光照」と示されています。「阿弥陀さまの無量の光に、私たち迷いの中にある生きとし生けるものすべてが照らされている」とおっしゃっています。特に「一切群生」とは、人間だけではなく、生きとし生けるもの全てを指しています。けれど、私たちはどれほどさまざまなのちが光に包まれ、照らされているということを実感しているのでしょうか。

閻夜に螢法座

今年の6月10日、新月の真暗な夜に、初めて参加型体験付きの「閻夜に螢法座」を開きました。まずはおつとめ。そして、螢限定の俳句法座の後、お寺の前の川沿いで最盛期の螢を観賞しました。満天の星空の下、はかないけれど美しい螢の光に人

生を重ね、光に魅了されるひと時でした。さて昔、あの良寛さんのお父さんで俳人の橋以南という方がいました。この橋以南は、諸説あるのですが、30歳ほど年下で新進気鋭だった小林一茶と、「慈悲・殺生」という題を与えられ、俳句をよみあったといいます。その時、一茶が「やれ打つな蠅が手をすり足をすり」とよんだのに対し、以南は「そこ踏むなゆうべ螢の居たあたり」とよんで、一茶を感服させたというエピソードが伝えられています。

双方とも、小さな虫にもいのちのあることを伝えてくれる俳句ですね。話は変わり、やはり螢の頃、都会から大きな網を持ってきて螢を捕まえて売ろうとする人がいたのです。地元の方が注意をし、その後、看板が立ちだしました。「螢は見るだけにしましょう」「自然の螢は捕らないようにしましょう」

しかし、秋から冬の頃になると、カメムシという、触ると臭いにおいのする虫が出てきます。臭いものだから、瓶に閉じ込めたり、ガムテープで引っ付けて捕ったりする方が多いのですが、さすがに螢のように「カメムシは見るだけにしましょう」

とか「自然のカメムシは捕らないようにしましょう」などという看板は出ません。なかなか私たちの心でいとおしく見つめることは難しいようですね。このように、私たちはどこまでも自分中心の物の見方しかできませんから、全てのいのちを照らす仏さまのお心がわかりにくいのでしょうか。しかし、仏さまはそんな私たちを見捨てません。美しい星空は、見ようが見えまいが私たちを包み照らしているのと同じです。

「すべてを照らすみ仏の光あり」と受け止めるのか、そんなものないを受け止めるのかでは、大きな違いが出てくることではないでしょうか。

私たちに降り注がれ、包み込む仏さまのあたたかな光を今一度感じてみましょう。すると、み光に照らされていても普段は背を向けた閻夜に向かいがちな自分自身であることに気付かされることではないでしょうか。一度限りの人生、仏さまを仰ぎ、いのちの尊さや不思議さを感じて歩みでありたいものです。

本願寺新報
 令和4年6月1日号掲載

新型コロナウイルス 対応策について

コロナウィルス対応3年目のお盆が近づいてきました。コロナウィルスの危機は、収束に向かっていると思われ、様々な規制も解かれています。しかし、終結宣言が出されていないので、皆様の守っている基準に沿ってお出かけ下さい。

お寺は、皆様と対面する時は、マスク着用を基準とします。

また、この夏は猛暑といわれていますので、皆様は健康を第一に考え、ご参詣の予定をお立て下さい。

お墓で水場周辺で密になりやすくなります。順番に水道をお使い下さい。

手桶・ひしゃく等は、あらかじめ次亜塩素酸水で滅菌しておきますが、滅菌スプレーを常置しますので、気になる方は、スプレーをご利用下さい



孟蘭盆会法要の ご案内

記

孟蘭盆会法要

7月10日(日)

午後2時より

お盆の期間

7月13日～16日

教誓寺門信徒皆様の法要です。今年「新盆」を迎える方々の、「新盆法要」を併せてお勤め致します。

昨年のお盆以降に七七(四十九日)を迎えた方から、今年のお盆までに七七(四十九日)を迎えた方々が「新盆」にあたります。

また、ご連絡をいただければ、お花とお線香をお供えして、それぞれのお墓のお参りを致します。

お花などの実費とお布施をお願い致します。



秋以降の行事予定

コロナウィルスの感染状況は、収束傾向にあると思われ、お寺の法要執行ですが、コロナ前の行事のかたちに戻す前提でひと夏を過ごして、9月初めに決定させて頂きます。

秋のお彼岸

9月20日から27日

23日彼岸会法要

報恩講

10月23日

御齋(食事)や布教師の先生の法話などを復活させたいと考えています。

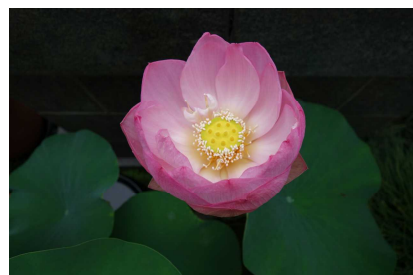
お墓の花筒について

お墓の「蓋付きステンレス花筒」への交換も、9割近くのお墓で済みました。

追加のお申し込みも受けましたが、製造元の高齢化と、ステンレスの高騰も合わさり、最後の注文が未だに納品されていません。

ですので、今お約束の分を以て「蓋付きステンレス花筒」への交換は終了し、

ご希望がある場合はその都度ご相談させて下さい。



去年の蓮の花
今年の開花を心待ちに
しています

教誓寺維持会費 について

本年度も維持会費ご納入下さり有り難うございます。皆様のご納入は順調ですが、残念ながら、連絡が取れなくなっている方もあります。転居なさるときには、お寺へもご一報お願い致します。

これからご納入下さる方も、宜しくお願い致します。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073
東京都港区三田 一―十一―十一
〇三(三四五)二二九
kyouseiji@is4.so-net.ne.jp